

2. 概況調査（石垣島地域）

2.1 目的

本調査は、各モデル地域における漂着ゴミの分布状況、漂着ゴミの特性及び漂着場の特性について、既存データ、情報を収集し整理することで、モデル地域におけるクリーンアップ調査範囲の位置付け（代表性）を明らかにすることを目的とした。

2.2 調査対象地域

概況調査の対象地域は、モデル地域の海岸（調査範囲）と自然条件が同一と見なされる一連の海岸とし、石垣島の全海岸を調査対象とした。

2.3 調査実施時期

2.3.1 文献及びヒアリング調査

漂流・漂着ゴミに係る概況調査として、「漂着ゴミそのものの特性」と「ゴミが漂着する場所の特性」の2つに大別し（表 2.4-1）、それぞれに関係する要素について平成 19 年 7 月～20 年 3 月にかけて、既存データ及び情報の収集・整理、関係機関へのヒアリングを行った。関係機関、また地域検討会において収集した資料を示し、地域検討員から意見を求めた。

2.3.2 航空機調査

漂流・漂着ゴミの漂着状況を確認するため、航空機による写真撮影を行った。石垣島では 2007 年 10 月 11 日に実施した。

2.4 調査方法

2.4.1 ゴミに関する特性に係るヒアリング調査方法

(1) 過去の漂着ゴミの実態調査及び清掃活動に関する事例調査方法

調査対象地域において過去 5 年程度の期間中における漂流・漂着ゴミに係る清掃活動（クリーンアップ活動）もしくは調査事例について、資料収集並びに関係機関に情報提供依頼・聞き取り調査を行い、活動事例の実施の時期・場所（範囲）・主催者・参加者・回収量・回収物の内容等の整理を行った。

(2) 漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査方法

調査対象地域を含む県内において漂流・漂着ゴミに係る回収処分を行う事業等の状況について、資料収集並びに関係機関に情報提供依頼・聞き取り調査を行い、漂着ゴミ回収処分事業の有無・事業の役割・作業分担等の整理を行った。

(3) 漂着場の特性に係る文献調査方法

漂流・漂着ゴミが流れ着く海岸線に固有な特性として、「漂着のメカニズムに関する条件」、「海岸の価値」及び「社会条件」の3つの視点から、既存文献並びにインターネット上の公表データ等の資料収集を行った。主な情報源は表 2.4-2 のとおりである。

表 2.4-1 漂流・漂着ゴミに関する要素と必要な情報

大項目	中項目	小項目	細目	必要な情報
ゴミに関する特性	実態調査	調査主体、組織	連携体制	主催者、参加者、市町村、NGO、ボランティアの役割
			各種手配	地元住民、漁業者との協力関係
		調査方法		必要資材の品目、調達方法、費用
		調査結果	ゴミの総量及び種類別量	重量、容量、重量/面積（距離）等
			発生源	国内、国外
		処分・処理方法	リサイクル	リサイクルの有無と方法
			現地処理	埋設、焼却、減容処理、その他
			現地外処理	輸送方法（車両、船舶）
			処分方法（焼却、埋設、その他）	
		その他	実施時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策
	漂着ゴミの回収・処分体制	処分事業計画 清掃、回収、運搬、処分等に関する活動	処分事業計画	処分事業計画の有無
			連携体制	海岸管理者、市町村、NGO等、ボランティア、河川管理者、漁業者などの役割
			各種手配	地元住民との協力関係
			回収方法	必要資材の品目、調達方法、費用
			処分・処理方法	リサイクルの実施と方法
現地処理（埋設、焼却、減容処理など）				
現地外処理（受入可能施設）				
	・輸送方法（車両、船舶）			
	・処分方法（焼却、埋設など）			
漂着場の特性	漂着のメカニズムに関する条件	流況		海流、潮流流、沿岸流、海浜流
		潮位差		潮位
		波浪		波高、波向
		風況		風速、風向
		地形	自然海岸	砂浜、干潟、岩礁
			人工海岸	直立護岸、防災構造物、人工海浜
			海岸線の形状	海岸の勾配
			入り組み度、湾の向き	
		河川	河口	河口の位置 河口からの距離 河川流量
		海岸の価値	自然的価値	貴重な生物
	貴重な地形、地質			鳴き砂、星の砂など
	国立公園等			国立公園等の有無
	歴史・文化的価値		景観	景勝地
			歴史・文化的遺産	神社など
	アメニティ		自然とのふれあい、親水性	レジャー、散歩など
文化、伝統			祭りなど	
	観光資源	観光資源の有無		
	レクリエーション	海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど		
社会条件	海岸利用	港湾区域	港湾の位置	
		漁港	漁港の位置	
		防災（津波、高潮）施設	防災施設の位置	
	河川利用	流域人口	流域人口	
	管理		流域市町村のゴミ処理量 海岸管理者、河川管理者	
調査範囲のゴミの漂着状況との比較				
漂着状況の確認	航空機調査	航空写真		

表 2.4-2 漂着場の特性に関する調査項目と主な情報源

項 目				検討に必要なデータ	位置図等情報源	数値データ等情報源
大項目	中項目	小項目	細 目			
漂着場の特性	漂着のメカニズムに関する条件	流 況		海流、潮汐流、沿岸流、海浜流	—	海流統計データ（海上保安庁 HP）
		潮位差		潮位	—	潮汐観測資料（気象庁 HP）
		波 浪		波高、波向	2006年平均波浪図（沿岸）	沿岸波浪統計値（気象庁 HP）
		風 況		風速、風向	—	日本気候表平年値（気象庁）
		地 形	自然海岸	砂浜、干潟、岩礁	沿岸域環境保全情報（海上保安庁 HP）	海岸調査報告書（環境省）
			人工海岸	直立護岸、防災構造物、人工海浜		
			海岸線の形状	海岸の勾配 入り組み度、湾の向き	地形図	
	河 川	河 口	河口の位置 河口からの距離 河川流量	河川海岸図	水文水質データベース（国交省 HP）、流量年表	
	海岸の価値	自然的価値	貴重な生物	ウミガメの産卵場、貴重種、植生など	脆弱沿岸海域図（環境省 HP） 自然公園地図	自然環境保全基礎調査（環境省 HP）
			貴重な地形、地質	鳴き砂、星の砂など		
			国立公園等	国立公園等の有無		
		歴史・文化的価値	景 観	景勝地	文化財地図	文化財目録
			歴史・文化的遺産	神社など		
		アメニティ	自然とふれあい、親水性	レジャー、散策など	観光ガイドマップ	—
			文化、伝統	祭りなど		
観光資源			観光資源の有無			
レクリエーション			海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど			
社会条件		海岸利用	港湾区域	港湾の位置	港湾漁港図	—
	漁 港		漁港の位置			
	防災（津波、高潮）施設		防災施設の位置	脆弱沿岸海域図（環境省 HP）	市町村データ一覧	
	河川利用	流域人口	流域人口 流域市町村のゴミ処理量	河川海岸図	統計年鑑、廃棄物統計	
	管 理		海岸管理者、河川管理者	地域管内図	—	

2.4.2 航空機調査方法

航空機により調査対象海岸の写真撮影を行い、ゴミの漂着状況の確認を行った。撮影方法を表 2.4-3 に示す。撮影高度は約 350m で、20～30cm 以上のゴミの識別が可能であった。撮影した写真を用いて海岸線方向に 10m あたりの漂着ゴミ(20～30cm 以上)の量をゴミ袋(20L)換算で「8 袋以上」、「1 袋以上 8 袋未満」、「1 袋未満」の 3 段階で評価し(表 2.4-4)、地図上に表現した。

評価方法としては、水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版 2006)で用いられた手法(図 2.4-1)を参考として、海岸線方向に 10m あたりの漂着ゴミの量をゴミ袋(20L)換算で表現した。表 2.4-4 に示した 3 段階のゴミ袋の数量に応じた航空写真の例を図 2.4-2 に示す。

漂着ゴミとしては発泡スチロールやポリタンクなどの人工系のゴミの他、流木も対象とした。海藻については独自調査で回収の対象としていない地域もあるため、航空機調査においても対象外とした。植生内の漂着ゴミについても撮影されている範囲で評価の対象とした。FRP 製のボートや和船(木製)については、漂着ゴミかどうかの判定がつかないため対象外とした。

表 2.4-3 撮影方法等

項目	器材名称等	備考
撮影器材	デジタル一眼レフカメラ (35mm フルサイズ素子) +85mm レンズ	オートフォーカス 性能の優れた機種 を選定 (民生品)
撮影方法	分割測光、シャッタースピード優先、ISO400	
解像度	約 1600 万画素	
撮影高度	海面上約 350m	
位置情報	撮影同時刻の緯度経度を GPS で記録	

表 2.4-4 漂着ゴミ(かさ容量)の推測基準

ゴミ袋の数量(目安)	かさ容量(目安)	備考
8 袋以上	160L 以上	ドラム缶 1 個程度以上
1 以上～8 袋未満	20L 以上～160L 未満	ポリタンク 1 個～8 個程度
1 袋未満	20L 未満	航空写真で識別できるゴミは ほとんど見あたらない状態

水辺の散乱ゴミの指標評価手法（海岸版）

1 現況写真の撮影方法

海岸における漂着ゴミの状況を写真撮影する条件を下記に示します。

- (1) 海岸が砂浜か岩場か、徒歩で行けるか降りられるかそれぞれ条件が異なりますが、概ね次に図示した3つの事例を参考にして、4方向又は3方向に向いて撮影します。
- (2) 撮影する際、デジタルカメラのファインダーの上端が、水際線又は地平線よりほんの少し下に位置するようにデジタルカメラを下方に傾けて撮影します。

※使用するデジタルカメラのズーム機能は使用せずに撮影します（焦点距離35mmが基準）。

写真撮影 事例 A

奥行きがある海岸
(砂浜)
4方向の撮影



写真撮影 事例 B

奥行きがない海岸
(砂浜)
3方向の撮影



写真撮影 事例 C

奥行きがない海岸
(岩場)
3方向の撮影



図 2.4-1(1) 水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版)

② ゴミの状況<ランク>の判定方法

撮影地点を中心に、海岸線延長距離約10mに漂着しているゴミ(自然物を除く)の量(かさ容量)を目視で確認します。

[10m]×[海岸の奥行き]の範囲にある漂着ゴミを回収したと想定した場合、中型の家庭用ゴミ袋(幅50cm×高さ60cm)でおおよそ何袋必要になるかを推測します。下表より、**ゴミ袋の数量**に対応した<ランク>を求めます。

ゴミ袋数と<ランク>の対応表

[海岸線延長距離10m]×[海岸の奥行き]の範囲の漂着ゴミを回収したと想定

ランク	ゴミ袋の数量	回収した際のゴミのかさ容量の表現として	かさ容量 (リットル)
0	0	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
T	約1 / 8	500mlのペットボトルならば 3 - 4 本分程度	2.5
1	約1 / 4	2 Lのペットボトルならば 2 本分程度	5
2	約1 / 2	2 Lのペットボトルならば 4 本分程度 200-350mlの飲料缶ならば 15本分程度	10
3	約1	2Lのペットボトルならば 8 本分程度 200-350mlの飲料缶ならば 30本分程度 ポリタンクならば 1本分程度	20
4	約2	2Lのペットボトルならば 16本分程度 ポリタンクならば 2 本分程度	40
5	約4	2Lのペットボトルならば 32本分程度 みかん箱ならば 3 個分程度	80
6	約8	ドラム缶ならば 1 本分未満	160
7	約16	ドラム缶ならば 1.5本分程度	320
8	約32	ドラム缶ならば 3 本分程度	640
9	約64	1立方メートル程度	1,280
10	約128	軽トラックで 1 台分程度	2,560

※判断が難しい場合は、別紙「ゴミの状況<ランク>別の写真撮影例」を参考にして判定して下さい。

2006.12

水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版)

水辺の散乱ゴミの指標評価手法は、国土交通省東北地方整備局、J E A N / クリーンアップ全国事務局及び特定非営利活動法人パートナーシップオフィス が2004年に協働で開発したものです。

【問合せ】0234-26-2381

図 2.4-1 (2) 水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版) (つづき)

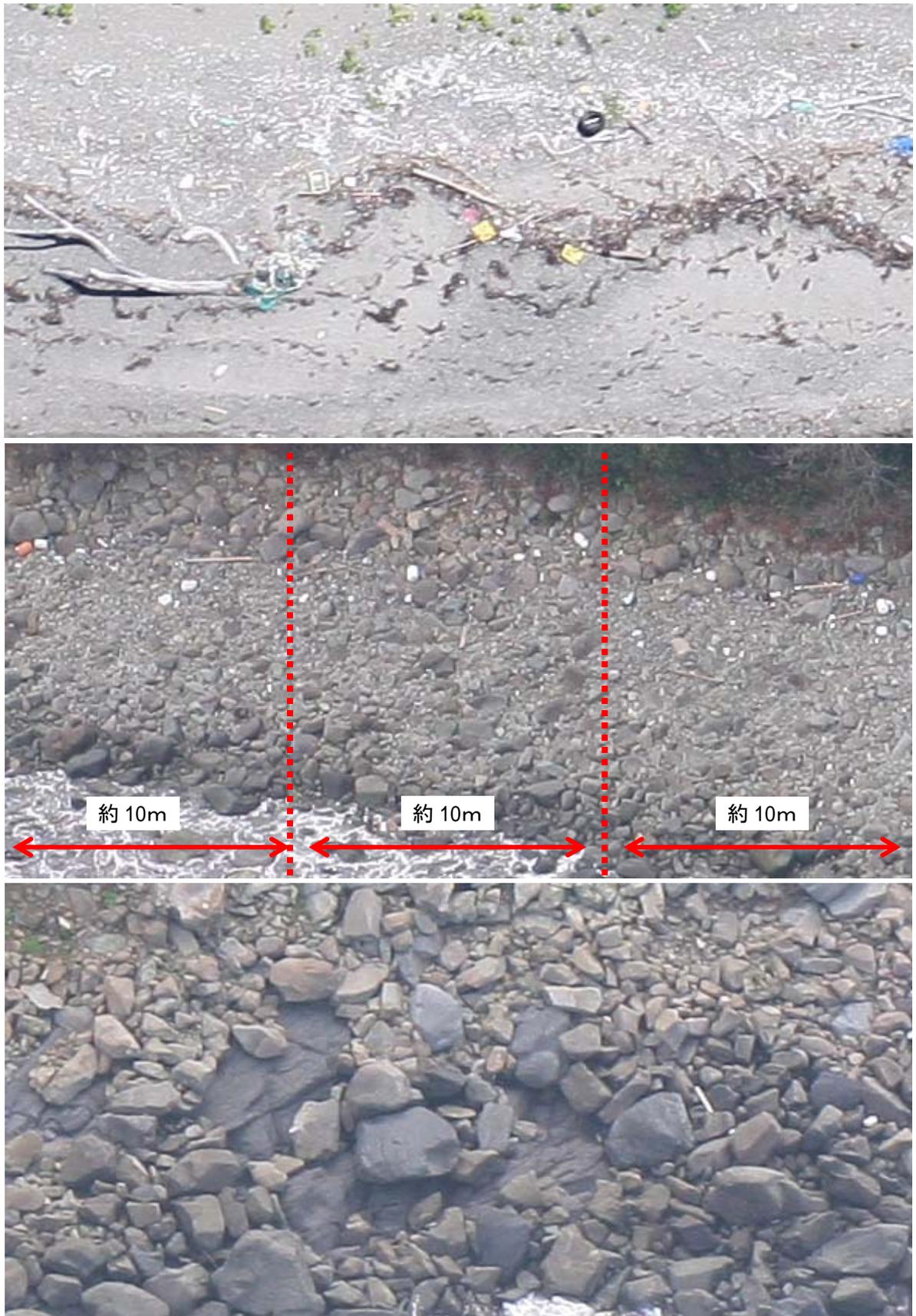


図 2.4-2 ゴミ袋(20L 換算)の数量に対応した航空写真の例
(上段：8 袋以上、中段：1 袋以上 8 袋未満、下段：1 袋未満)

2.5 調査結果

2.5.1 文献及びヒアリング調査結果

(1) 漂着ゴミの実態調査及び清掃活動に関する事例調査結果

調査対象地域において過去5年程度の期間中において漂流・漂着ゴミに係る実態調査及び清掃活動（クリーンアップ活動）について、入手できた情報から整理を行った。石垣島で収集・整理できた事例は8事例であった。また、石垣市生活環境課で把握しているボランティアによる海岸清掃実績は、平成18年度は20海岸87回、平成19年度では18海岸105回となっている（表2.5-1、表2.5-2）。

当該地域の漂着ゴミ清掃活動については、行政、民間団体、個人活動家による「八重山環境ネットワーク(事務局:石垣海上保安部警備救難課)」が大きな役割を果たしている他、地域住民による自主的な取組みも多く行われている。

なお、ボランティアは所定の方法で事前に石垣市に清掃計画を申請すれば、市から必要なゴミ袋及び軍手が支給され、また回収したゴミの集積場所を指示される。ボランティア清掃の後は、石垣市がゴミを回収する。

表 2.5-1 (1) 海岸漂着ゴミの実態調査に関する事例調査

	活動名称	実施日	実施場所	主催者及び 後援者	事業実施 主体	内容	回収ゴミ量	備考
1	クリーンアップ キャンペーン	平成 16 年 10 月 29 日 平成 17 年 5 月 18 日 9 月 14 日	石垣市吉原海岸 石垣市吉原海岸	J E A N / クリ ーンアップ全国 事務局が全国活 動を集計 (後援: 環境 省・水産庁・海 上保安庁・国土 交通省)	—	—	ワースト3 1 プラスチック破片 2 ふた、キャップ類 3 飲料用プラボトル	—
2	平成 16 年漂着 ごみの実態調査 (冬季調査)	冬季調査: 平成 17 年 1 月 19 日~ 1 月 20 日	島の東西南北の 海岸毎に 1 地点 10m×10mの調 査区画をごみの 集積状況が偏ら ないように設置	(株)沖縄環境保 全研究所 (平成 17 年度 内閣府委託業 務)	—	—	島の総ごみ量= 漂着ごみ量原単 位 (/10m)×各方位の 海岸長の和	推定ゴミ総個数: 冬季 350,859 夏 季 406,941 推定ゴミ総重量: 冬季 17,115kg 夏 季 3,335kg 推定作業の範囲: 16,120m 漂着ゴミの内訳: 冬季の個数、夏季の個 数 1. プラスチック類; 280,645、208,442 2. ゴム 類; 6,264、1,104 3. 発砲スチレン類; 22,586、29,929 4. 紙 類; 1,549、418 5. 布 類; 317、888 6. ガラス陶磁器類; 18,933、102,242 7. 金 属 類; 918、13,940 8. その他の人工物; 14,886、44,133 9. その他(自然物); 4,761、5,845 回収処理事業を表 2.5-1 (2)に示す。
	平成 17 年漂着 ごみの実態調査 (夏季調査)	夏季調査: 平成 17 年 8 月 29 日~9 月 14 日						

注 1: 表中の「—」は不明を示す。

2: 各情報の出典を示す。

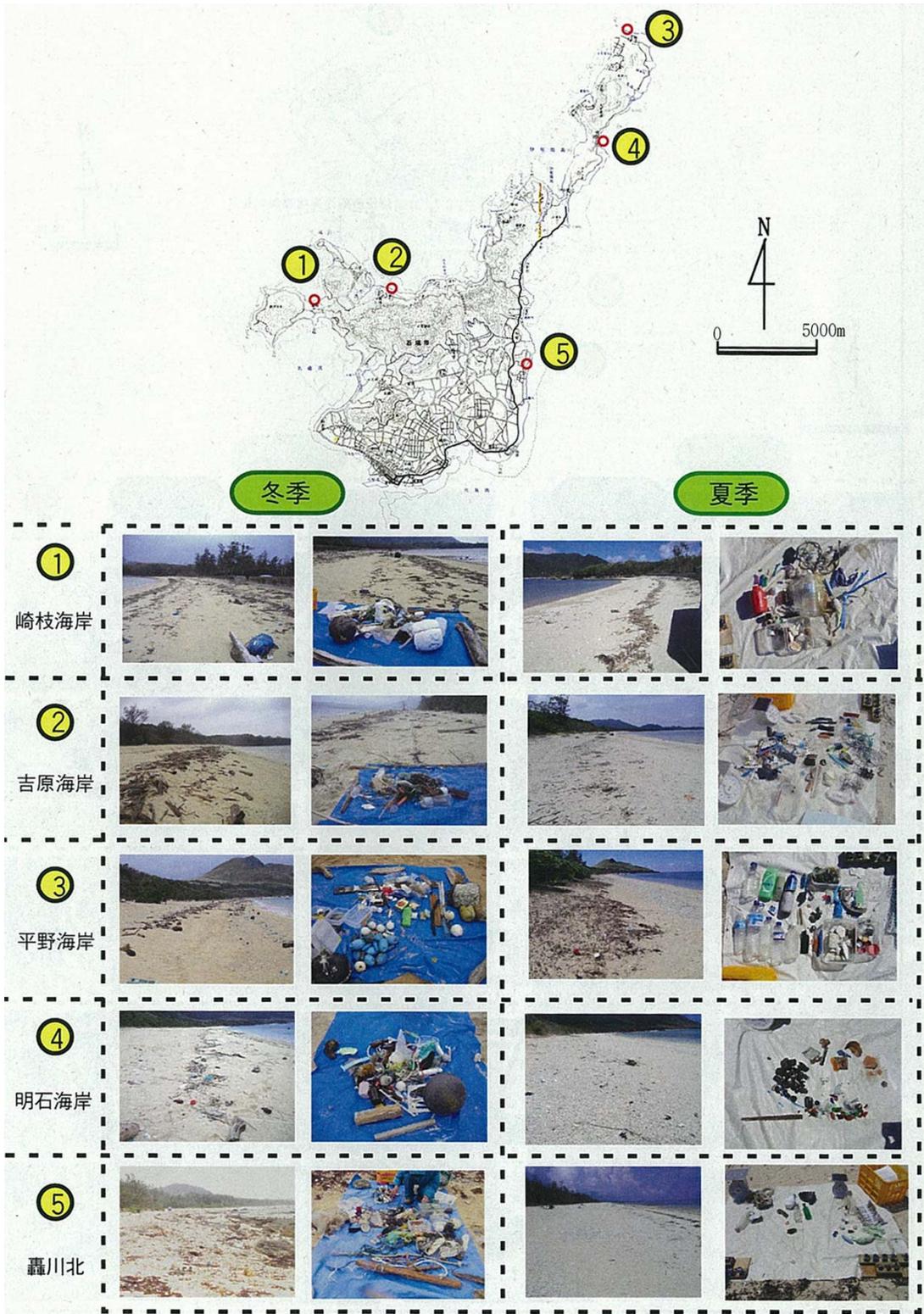
1: 「クリーンアップキャンペーンREPORT」(JEAN/クリーンアップ全国事務局)、「第 11 管区海上保安本部ホームページ美ら海とともに 平成 16 年漂着ゴミマップ」

2: 「離島地域廃棄物対策基本調査報告書」(平成 18 年 3 月、株式会社沖縄環境保全研究所)

表 2.5-1 (2) 海岸漂着ゴミの実態調査に関する事例調査

3. 平成 16 年漂着ごみの実態調査 (冬季調査)
平成 17 年漂着ごみの実態調査 (夏季調査)

【清掃活動の概要】



(※写真は海岸10m当たりのごみ量)

情報出典：「離島地域廃棄物対策基本調査報告書」(平成 18 年 3 月、株式会社沖縄環境保全研究所)

表 2.5-2(1) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

	活動名称	実施日	実施場所	主催者及び 後援者	事業実施 主体	内容	回収ゴミ量	備考
1	大浜海岸清掃	平成17年 5月22日	大浜海岸	—	—	大浜地域住 民から約50 人が参加	ゴミ袋121袋 (燃えないゴミ103袋、 燃えるゴミ18袋)	回収ゴミ総容量：ゴミ袋121袋 回収に要する人材の手配：西表島エコツ ーリズム協会
						海保職員家 族から約40 名が参加		
2	—	平成17年 6月4日	川平湾	—	—	創価大ダイ ビングスク ール及びB & B K a b i r a から21名が参 加	ゴミ袋約7袋	回収に要する人材の手配：西表島エコツ ーリズム協会
3	—	平成17年 6月13日	宮良海岸	—	—	宮良小学校 児童122名 が参加	ゴミ袋約30袋	回収に要する人材の手配：西表島エコツ ーリズム協会
4	沖縄クリーンア ップ・ゆいま ーる	平成16年	石垣市吉原 海岸	沖縄インターナ ショナルクリー ンビーチクラブ	—	ゆいむんか ら25人が参 加	重量：120kg	回収ゴミ総重量：120kg 回収作業の範囲：距離60m

注1：表中の「—」は不明を示す。

2：各情報の出典を示す。

1、2、3：八重山環境ネットワーク

4：「クリーンアップキャンペーンREPORT」(JEAN/クリーンアップ全国事務局)

表 2.5-2 (2) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

	活動名称	実施日	実施場所	主催者及び 後援者	事業実施 主体	内容	回収ゴミ量	備考
5	まるごと沖縄ク リーンビーチ2 005 八島海岸クリー ンアップ	平成17年 6月25日	八島小学校 裏海岸	—	—	会員を中心 に地元高校 生などを含 む一般市民 約80名が参 加	ゴミ袋 130 袋	回収ゴミの内訳 (一部) : 8. その他の人工物 ; 飲料缶 1,199 本、ペ ットボトル 341 本、びん 25 本 回収に要する人材の手配 : 西表島エコツ ーリズム協会
6	—	平成17年 7月2日	伊野田海岸	—	—	南陽興産株 式会社及び 真喜良小ミ ニバスケ部 を含む地域 住民約50名 が参加	ゴミ袋 100 袋	回収に要する人材の手配 : 西表島エコツ ーリズム協会

注1 : 表中の「—」は不明を示す。

2 : 各情報の出典を示す。

5、6、 : 八重山環境ネットワーク

表 2.5-2 (3) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

(石垣市生活環境課把握分)

平成18年度				平成19年度											
清掃海岸		清掃回数	延べ人数	清掃海岸		清掃回数	延べ人数								
米	原	海	岸	10	122	米	原	海	岸	5	44				
名	蔵	海	岸	5	210	名	蔵	海	岸	7	128				
大	浜	海	岸	4	105	大	浜	海	岸	11	435				
明	石	海	岸	4	36	明	石	海	岸	12	52				
白	保	海	岸	4	85	白	保	海	岸	11	410				
吉	原	海	岸	5	18	吉	原	海	岸	6	172				
川	平	海	岸	11	466	川	平	海	岸	7	41				
崎	枝	海	岸	6	105	崎	枝	海	岸	6	87				
宮	良	海	岸	7	275	宮	良	海	岸	11	213				
伊	土	名	海	岸	2	20	伊	土	名	海	岸	2	45		
伊	原	間	海	岸	2	30	伊	原	間	海	岸	9	117		
野	底	海	岸	6	128	野	底	海	岸	5	51				
真	栄	里	海	岸	4	50	真	栄	里	海	岸	5	145		
山	原	海	岸	1	30	山	原	海	岸	2	110				
平	野	海	岸	3	143	平	野	海	岸	1	50				
桴	海	太	田	海	岸	3	13	桴	海	太	田	海	岸	2	12
久	字	良	海	岸	2	10	久	字	良	海	岸	2	45		
真	喜	良	海	岸	2	20	八	島	海	岸	1	6			
伊	野	田	海	岸	4	37									
玉	取	崎	海	岸	2	25									
計	20海岸	87回	1,928人	計	18海岸	105回	2,163人								

H19年度 回収量 = 2トンダンプ30台 重量(31トン) 容積(480立方メートル)

(2) 漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査結果

調査対象地域を含む県内において、地方自治体が行っている漂流・漂着ゴミを対象とする回収処分事業の実施事例もしくは事業計画について情報収集を実施したが、現在のところ関連する情報は入手できていない。

(3) 漂着場の特性に係る文献調査結果

漂流・漂着ゴミが流れ着く海岸線に固有な特性として、「漂着メカニズムに関する条件」、「海岸の価値」及び「社会条件」の3つの視点から表わされる地域の特性について、既存データ、情報等を収集し、入手できた情報の整理を行った(表 2.5-3)。

モデル地域のある石垣市は、総面積約 229km²、人口約 4.5 万人、年降水量約 2,061mm、平均風速 4.7m/s、海岸延長 175.47km (自然海岸 135.95km) の地域である。

流況は、八重山諸島の周りには暖流である黒潮が流れており、最大流速は秋季に 1.8 ノットである。月最高と月最低の潮位の差は 189~225cm、最高波高は 3.06m、冬季の平均風速と最多波高はそれぞれ 4.9m/s、NNE である。

海岸地形をみると、自然海岸 135.95km の内訳は、泥浜 0.00、砂質 79.53、岩石 56.42、他 0.00 となっている。

石垣市には規模の大きな河川や水系は存在せず、二級河川が 5 水系存在するが、一級河川は無い。

モデル地域海岸は、西表石垣国定公園に指定されており、その中でも米原海岸と隣接する米原キャンプ場はレジャーや自然との触れ合いの活動の場として、地元・観光客を問わず多くの人に利用されている。また、近傍には日本百景国指定名勝の「川平湾及び於茂登岳」がある。

地域管理として、廃棄物処理施設は、石垣市クリーンセンター、石垣市一般廃棄物最終処分場等がある。

沖縄県内の海岸線の管理状況については、表 2.5-4 に示すとおりである。

表 2.5-3(1) 漂着場の特性 (沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸)

調査対象地域：⑦-1 沖縄県石垣市吉原海岸～米原海岸		経緯度：124°10'28"E 24°26'57"N					
概況調査範囲を含む当該県情報：沖縄県			モデル地域を含む当該市町情報：石垣市				
		<p>【沖縄県庁】 ○所在地：那覇市泉崎1丁目2-2 〒900-8570 ○経緯度：127°40'52"E 26°12'45"N ○連絡先：098-866-2333 (総合案内)</p> <p>○総面積：2,274.59km² ○宅地面積：13,033.58ha ○人口：1,366,854人 (男671,001 女695,853) ○人口密度：601人/km² ○世帯数：498,411世帯 ○平均気温：22.7℃ ○平均湿度：75% ○年降水量：2,036.9mm ○平均風速：5.3m/s ○海岸延長：1,698.75km (自然海岸 1,242.45km) ○一級河川：— ○二級河川：50水系 ○ごみ排出量：460,133t/年</p>				<p>【石垣市役所】 ○所在地：石垣市美崎町14番地 〒907-8501 ○経緯度：124°09'07"E 24°20'14"N ○連絡先：0980-82-9911 (代表)</p> <p>○総面積：228.94km² ○宅地面積：592.89ha ○人口：45,168人 (男22,378 女22,790) ○人口密度：197人/km² ○世帯数：18,178世帯 ○平均気温：24.0℃ ○平均湿度：77% ○年降水量：2,061.0mm ○平均風速：4.7m/s ○海岸延長：175.47km (自然海岸 135.95km) ○一級河川：— ○二級河川：5水系 ○ごみ排出量：22,377t/年</p>	
漂着のメカニズムに関する条件	流況 【127°E-26°N】	平均流速 (ノット) 最大流速 (ノット) 平均流向 (度)	1月 0.0	4月 0.1	7月 0.3	10月 0.3	
	潮位差 【那覇】 TP. -258cm	月平均潮位 (cm) 月最高潮位 (cm) 月最低潮位 (cm)	1月 251.7	4月 249.1	7月 284.4	10月 279.9	
	波浪 【那覇】	最大有義波高 (m) 平均有義波高 (m) 最高波高 (m)	1月 4.19	4月 2.54	7月 2.84	10月 6.40	
	風況 【那覇】	平均風速 (m/s) 最多風向 (—) 最大風速風向 (m/s・—)	1月 5.5 NNE 21.7・N	4月 5.1 NNE 21.2・SW	7月 5.2 SE 46.4・NNE	10月 5.2 NNE 45.1・WNW	
	海岸地形 【沖縄県】	自然海岸 (km) 半自然海岸 (km) 人工海岸 (km)	1,242.45 (泥浜 4.08 砂質544.59 岩石605.29 他88.49) 221.76 (泥浜 1.88 砂質186.09 岩石 33.79 他 0.00) 214.54 (埋立192.74 干拓 1.76 他20.04)				
	代表河川 【—】	幹川流路延長 (km) 流域面積 (km ²) 流量 (m ³ /s)					
	海岸の価値	藻場干潟等分布 貴重な生物分布 自然公園等分布					
	歴史・文化的価値	史跡・名勝・天然記念物 自然景観資源 指定文化財					
	アメニティ	自然との触れ合い活動 観光資源・行事 海岸レクリエーション					
社会条件	海岸利用	護岸・構造物・海浜 港湾・漁港 産業施設等					
	河川利用	一級河川・二級河川 流域人口					
	地域管理	港湾区域 漁港区域 海岸保全区域					

○特記事項：

表 2.5-3(2) 漂着場の特性 (沖縄県石垣市 吉原海岸～米原海岸)

調査対象地域：⑦-1 沖縄県石垣市吉原海岸～米原海岸		経緯度：124°10'28"E 24°26'57"N	
[撮影日：2007年10月11日]			
自然的価値	モデル地域海岸	西表石垣国立公園 (石垣地域) 普通地域 ① 西表石垣国立公園 (米原海中公園地区) ② 国指定天然記念物：米原のヤエヤマヤシ群落③ 県指定天然記念物：仲筋村ネバル御嶽の亜熱帯海岸林 ④ 米原ビーチにアカウミガメ・アオウミガメ産卵地の記録あるが詳細不明	モデル地域海岸 海岸利用 石垣港 (重要港湾) 石垣漁港 (第二種)
	歴史・文化的価値	モデル地域海岸 近傍海岸 日本百景国指定名勝：川平湾及び於茂登岳 眺望点：仲筋展望所	河川利用 モデル地域海岸 ピウッタ川 山原川 荒川：流域延長 500m、流域面積 1.36km ² ⑥
	アメニティ	モデル地域海岸 近傍海岸 米原キャンプ場 ⑤ 底地海水浴場 川平公園	地域管理 モデル地域海岸 近傍海岸 海岸保全区域：米原海岸 ⑦ 石垣クリーンセンター： 処理能力；焼却 40t/日 石垣市ストックヤード： 処理能力；資源化 10t/日 石垣市一般廃棄物最終処分場： 処理能力；2014年度埋立終了
情報出典：「西表石垣国立公園」(環境省那覇自然環境事務所、平成19年)、「石垣市の文化財位置図」、「石垣市の優れた環境・景観の主な場所」			

表 2.5-4 沖縄県内の海岸線の管理状況

区分		延長	内訳延長	海岸管理者	国の所管部局	県の所管	漂着ゴミに関する国補助金	
海岸	海岸保全区域 (海岸保全施設設置箇所等)	海岸管理者が 管理する海岸 (公共海岸)	約427km	約143km	県知事	河川局	海岸防災課	災害関連緊急大規模 漂着流木等処理対策 事業 (国交省・農水省)
				約87km	港湾管理者の長	港湾局	宮古島市 石垣市 那覇港管理組合 海岸防災課	
				約144km	県知事	農村振興局	農村整備課	
				約53km	県知事管理約18km 市町村長管理約34km	水産庁	漁港漁場課	
	海岸保全区域 外(岩場等)	一般公共海岸区 域	約1,210km	約1,210km	県知事	河川局	海岸防災課	災害廃棄物処理事業 (環境省)
	その他(公共海 岸から除かれる 土地)	海岸管理者以外 が管理する海岸	約390km	約390km				
計(海岸延長)		約2,027km						

注) 海岸延長の数値は、「海岸統計 平成19年度版」(国土交通省河川局編)を参照した

情報出典:沖縄県

2.5.2 航空機調査結果

航空写真から判定した漂着ゴミの量を検証するため、共通調査で実際に回収されたゴミの量と航空写真の判定結果を比較した(図 2.5-1)。航空写真では 20～30cm 以上のゴミの量を推定しているが、共通調査(59 地点)では、1cm 以上の漂着ゴミのすべてを回収し、その容量を計測している。そこで、両者を比較するにあたり、共通調査で回収されたゴミの中から単体もしくは塊り(木切れなど)で容量が 20L 以上のゴミの総容量を集計し、航空写真によるゴミ量の推定結果と比較した。一つの調査地点で汀線から陸方向に複数の調査枠を設置している場合には、それらを合計して海岸線 10m 当たりのゴミの容量を算出した。航空写真の撮影時期(2007 年 8～10 月)と共通調査によるゴミの回収の時期(2007 年 9～10 月)の時間差は最大約 1.5 ヶ月である。

航空写真による判定結果と実際に回収されたゴミの量を比較した結果、1 袋以上 8 袋未満及び 8 袋以上と判定された場合には、概ね実際に回収されたゴミの容量と一致した。共通調査は漂着ゴミの著しい地点で実施されているため、そのような地点での大量かつ大型のゴミは航空写真からもよく識別できていると考えられる。一方、1 袋未満と判定された地点においては、実際に回収されたゴミの量と相関がとれていない地点が多くみられた。航空写真ではゴミがほとんど識別出来ないにも係わらず実際にはゴミが回収されていることから、航空写真の撮影後に漂着したゴミの影響が大きいと推測される。これらの結果から、航空写真を用いたゴミ量の推定は、特に大型のゴミが大量に漂着している場合において有効であると考えられる。

調査結果を図 2.5-2 に示す。図 2.5-2 には評価結果を考察する一助として、海岸線の地形情報(浜が発達していない海岸及び人工海岸、ともにゴミが漂着しにくい)を付加した。これらの地形データは第 5 回自然環境保全基礎調査結果(環境庁、1998)を参照した。

図 2.5-2 をみると、石垣島の周囲では、北向き～東向きの海岸の漂着量が多いことがわかる。この理由として、冬期の北東からの季節風の影響が考えられる。また、本モデル調査範囲の海岸は主に北向きであり、この季節風の影響を受けていると判断される。

上記のように、本調査により、陸側から見通しが効かない浜やアクセスが困難な浜も含め、石垣島の全海岸線について漂着ゴミの状況を連続的に把握することができた。今後、これらのデータと海岸線付近の自然環境、社会環境のデータを重ね合わせることにより、漂着ゴミの回収活動の優先順位の設定などが可能になると考える。

ただし、航空機による写真撮影が 9 月～10 月にかけて行われたため、海水浴シーズン前の海岸清掃活動等によって漂着ゴミの回収が行われていることも加味する必要がある。また、本調査で評価の対象となっているゴミはその大きさが 20～30cm 以上のものであり、実際にはそれ以下のゴミも数多く存在する。そのため、本調査では把握できない小さな漂着ゴミの状況について、農林水産省農村振興局ら(2007)の調査結果等を参照することで、より詳細に漂着ゴミの全体像を把握できると考えられる。

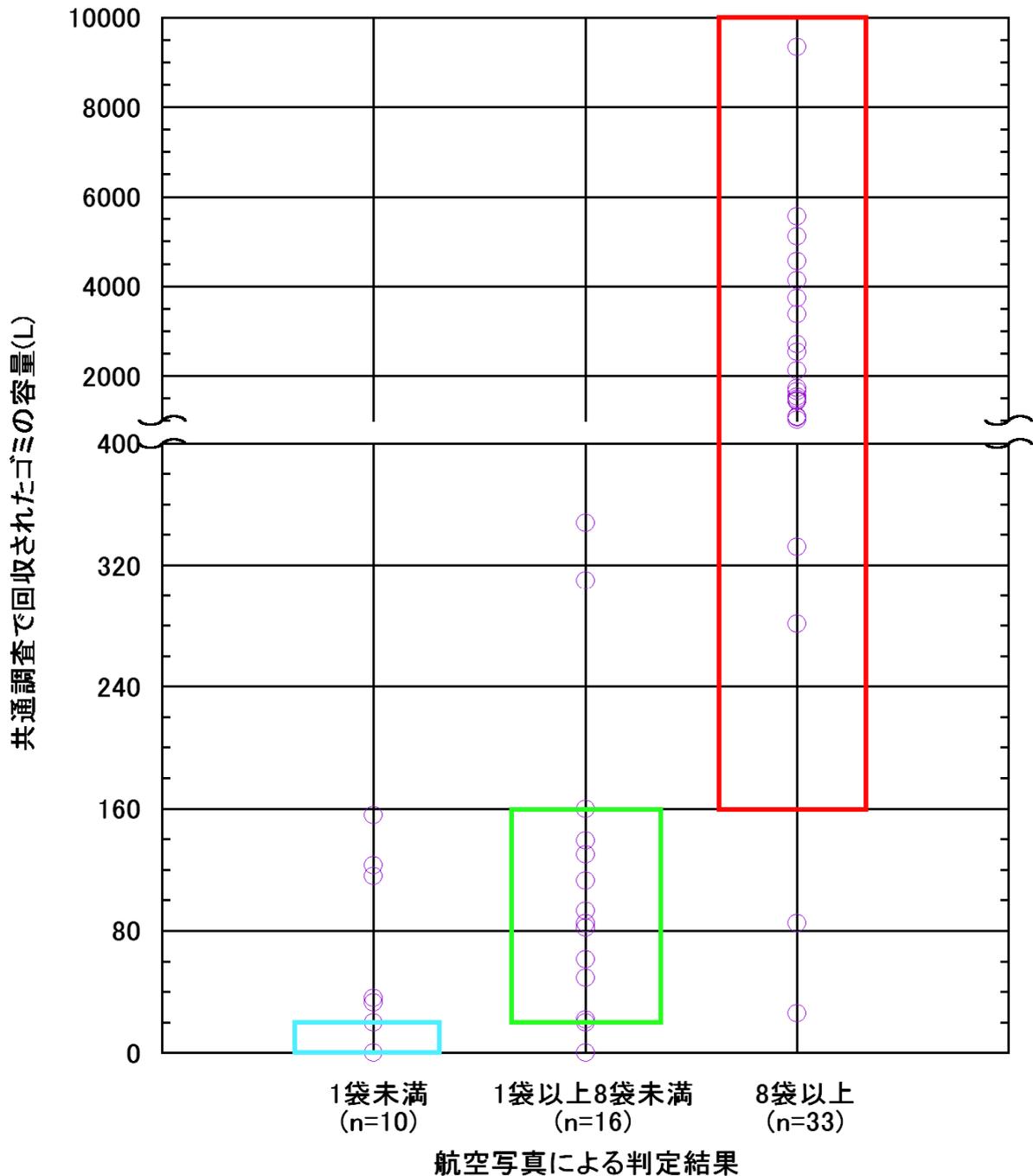


図 2.5-1 航空写真から判定した漂着ゴミの量と共通調査で実際に回収されたゴミの量の比較
(グラフ中の青・緑・赤の枠が航空写真の判定と実際の回収量が一致する範囲を示す)

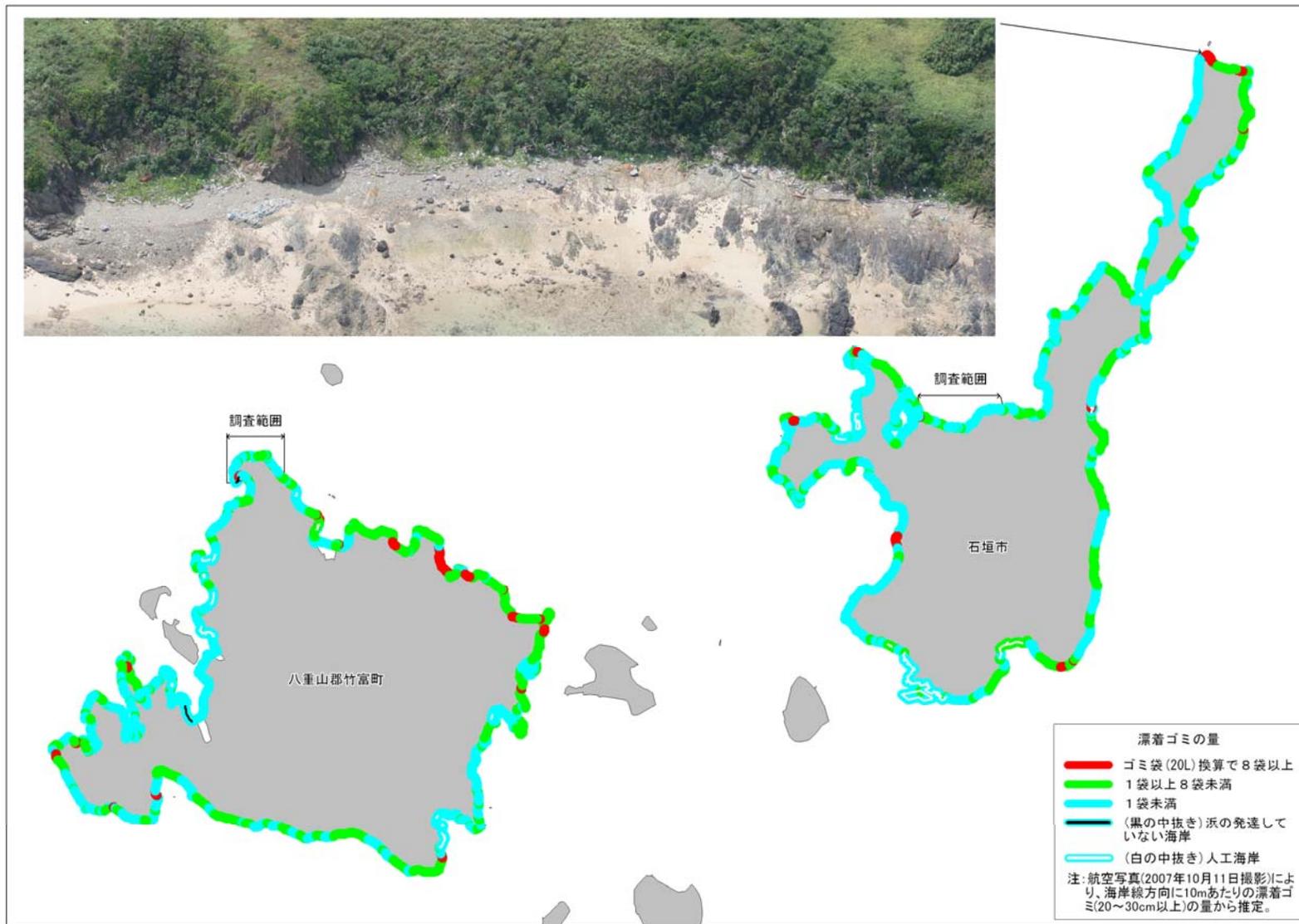


図 2.5-2 石垣島における漂着ゴミの状況 (2007年10月11日撮影)